



石川保が問う かしの森公園の再整備は急務

問 宇都宮大学との共同研究について

何時ごろから、研究を開始したのか、その後の研究結果は？

車両など出入り口が左折のみの利用ということは、利便性にあまりにも問題がある。

答 町長 かしの森公園は昭和55年に供用開始しLRT開業に伴いかしの森公園停留所の利用者が19か所中第4位の利用者であり観光客の利用者も増え公園の多くの役割が求められている。交流人口の増加や町の魅力のPRには、継続的にイベントを開催することが重要と考えています。

「子育て世代の憩いの場」「LRT利用者のニーズを満たす場」「各種イベントの開催場所」「地元企業との連携やカーボンニュートラル事業の取組の場」の4つを整備方針として定め、第7次芳賀町振興計画にも位置づけています。

一方で、令和6年5月に、各施設の健全度を調査し、修繕や更新における工法や概算費用、時期および維持管理方法などを検討する長寿命化計画を発注しましたので、その中で改めて西側や、ほかの部分からの出入口などについても検討していきたいと考えています。

公共交通は利便性が重要

問 実証実験の北部地区公共交通は利便性、効率性に課題がある。工業団地内循環バスについても課題がある。デマンドタクシー（ひばりタクシー）なども課題があるが一括した公共交通を確立すべきである。

答 町長 バス路線空白地帯における移動手段の確保および公共交通ネットワークの充実に資する施策であります。

問 公共交通の利便性はこれからの時代「AIオンデマンド」でスマートフォンから予約をしていつ

でもどこでも利用できるシステムが多くの自治体で実施されています。大きなバス、1日数本の交通網は利便性に欠け費用対効果から止めるべきである。

答 企画課長 芳賀町独自の公共交通利活用の検討会を設け、新たな公共交通の在り方、仕組みをさっそく作っていくことで準備を進めています。

振興計画に基づく将来人口15,000人対策は

問 2035年目標値15,000人はどのような根拠か？

答 町長 1,700人の人口増加を図るため市街化区域では祖母井中部地区、祖母井北部地区の整備による人口増を見込み、市街化調整区域では祖陽が丘地区、下原地区における住宅地整備を見込んでいます。

昼夜間人口比率について企業へのアピールは？

問 芳賀台の工業団地（第2工業団地）が本格稼働の際は従業員数は計27,694人と聞いています。昼夜間人口比率は225.6%（令和2年調べ）企業へのPRは？

答 企画課長 企業向けに一本化された町の情報を提供する冊子がなく、今後、定住、教育、福祉、子育て、公共交通など整理をしてPRできるように考えています。



黒崎浩一が問う 人口減少対策について



問 人口減少対策について伺う。町は令和17年時の将来人口を15,000人としているが、どのような計画を検討しているのか伺いたい。

答 町長 将来的な開発計画としては、祖母井中部北部地区や下原地区、50戸連たん地区の計画を順次進めます。

問 中心部から離れた地域においては、限界集落的な地区もある。打開するための方策を伺う。

答 町長 地域コミュニティの活性化や道路、下水道などのインフラ整備、デマンドタクシーなどの公共交通の充実、地域包括ケアシステムなどの施策を引き続き実施していきます。

問 下原地区について町の進捗状況と今後の進め方について伺う。

答 都市計画課長 地区計画制度を活用した整備を行います。今年度は測量や調査を令和7年度に地区計画案決定の法的手続きや開発許可申請を進め、令和8年度の用地買収や工事着手を目指します。

問 具体的な空き家対策について伺う。

答 都市計画課長 相談会の回数増や空き家バンクへの登録を促していきたいと考えています。

地域の文化を守るため寄り添った支援を

問 地域の伝統文化、芸能の保全および継承について。

答 教育長 伝統芸能団体と地域自治体、小中学校と連携し、小中学生に伝統芸能に接する機会やお囃子の練習、地域イベントへの参加を通じて、後継者の育成や地域との交流を深める取り組みを進めております。

町道市の堀線について維持管理の省力化を

問 町道市の堀線拡幅工事計画について伺う。

答 町長 整備を計画している区間は、消防団詰所北側交差点から旧芳志戸小学校入口付近まで役370メートルです。この区間は見通しの悪いことから、安全性確保の為、西側に2.5メートルの歩道を付加した幅9.5メートルでの整備を計画しています。

問 具体的な整備時期を伺いたい。

答 建設課長 本年度詰所北側交差点から南へ約260mの工事を行い、令和7年度は残り110メートルの工事を行いたいと考えております。

問 市の堀の除草などの維持管理について伺う。

答 建設課長 高齢化等の理由により維持管理が難しくなっており、省力化、地域負担の軽減策などについて検討していきたいと考えています。



▲市の堀線



▲太々神楽